

優良レポートのベンチマーキングを通して考える

『統合報告書』とESGコミュニケーション

～ SDGs / CSV など、新たな潮流を含めて

これからの日本企業のあるべき対応を考える ～

《開催要領》 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

日時▶ 2017年 12月20日(水) 13:00～17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム (東京: 麹町)

《ご参加頂きたい方》

『統合報告書』の作成を新たに検討、またはESG他の継続的な改良を検討している企業のIR部門、CSR部門、環境部門など関連部門のご担当者

講師 キュー・エム・コンサルティング 取締役社長 公認会計士 松原恭司郎 氏

国際会計事務所系コンサルティング会社などを経て1992年に独立。バランス・スコアカード、ビジネスモデル関連のコンサルティング業務に従事。SBI大学院大学客員教授、東北福祉大学兼任講師。元 中央大学大学院特任教授。主な著書に『図解「統合報告」の読み方・作り方』(2014) 中央経済社、『松原流: 戦略マップ/BSC実践教本』(2010)、『ビジネスモデル・マッピング教本』(2013)、『ROE重視のKPIマネジメント教本』(2016) 日刊工業新聞社などがある。



《申込方法》 当会ホームページ (https://www.bri.or.jp) からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

受講料: 1名(税込・資料代含) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の使用法(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員	34,560円(本体価格 32,000円)	一般	37,800円(本体価格 35,000円)
-----	-----------------------	----	-----------------------

171249-0101 『統合報告書』とESGコミュニケーション

ふりがな 会社名			
住所			
TEL		FAX	
ふりがな ご氏名		所 属 役 職	
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当者宛E-mailからもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間～10日前まで)に受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認ください。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 公開セミナー事業グループ 担当/民秋・川守田 E-mail: tamaki@bri.or.jp

・プログラム・

■開催にあたって■

国際統合報告評議会(IIRC)による「国際統合報告フレームワーク」の公表(2013年12月)から4年近くが経過し、昨年は約300の日本企業が統合報告書を発行しています。「コーポレートガバナンス・コード」に加えて、国連の「SDGs(持続可能な開発目標)」(2015年9月)や、経産省の「価値協創ガイダンス～ESG・非財務情報と無形資産投資～」(2017年5月)などを受けて、統合報告書の重要性が高まっています。そこで体系的で実践的な入門セミナーを開催致します。

■プログラム■

1. 統合報告書の基礎

- 国際統合報告評議会(IIRC)のフレームワークのおさらい
 - フレームワーク(2013年12月公表)の体系
 - フレームワークの重要ポイント(ビジネスモデル、戦略、KPI、コネクティビティ他)
- 統合報告の動向
 - 日本企業による対応
 - 国際統合報告評議会のその後の動向

2. 統合報告書の優良事例のベンチマーキング

- 統合報告書の優良事例のレビュー
 - 複数の優良事例について、特徴(ビジネスモデル、戦略、KPI、コネクティビティ他)をレビューし、IIRCのフレームワークを参照する
- 統合報告書ベストプラクティス企業を取り上げ、その継続的改善の足跡を追う

3. ESG(環境・社会・ガバナンス)と統合報告書

- ESGに係る新たな動きを理解する
 - ポーター等が提唱する「CSV(共通価値の創造)」の概要
 - 国連の「SDGs(持続可能な開発目標)」(2015年9月採択)の概要と企業戦略との関係
 - 経産省の「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス～ESG・非財務情報と無形資産投資～」(2017年5月公表)の概要
- 統合報告によるESGコミュニケーション
 - CSV、SDGsそして経産省の価値協創ガイダンス等を踏まえた統合報告書におけるESGコミュニケーションのあり方について考える

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。